



KYUSHU UNIVERSITY 100th 2011
知の新世紀を拓く

科学における研究倫理 について

2026年4月6日

九州大学 大学院システム生命科学府



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

研究倫理 — なぜ？

• 研究不正が焦点に

- 平成26年 S T A P 現象とそれに係わる研究不正が社会的関心事に
- 「やってはいけないことだと知らされてなかった」

• 学位論文の電子化

- 平成25年度から、博士学位論文の公表が電子化
- （プログラム等を通じて）容易に比較され、研究不正が表面化する

• 研究倫理教育の実施推進

- 「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」（文科省：平成26年8月）
- 九大では平成27年度から院生も研究倫理教材の受講義務

行うべきでない研究

- 人間および社会に害をなす研究
- 法令に違反する研究
- 利益相反する研究

科学を支えるもの

- **どのような世界も**

- その世界を成り立たせているものがある。
それを破壊する行為は最もしてはいけないこと

- **研究インテグリティ(研究公正)：**

科学者の誠実さ、研究上で守るべき倫理や規範
さらに、研究の国際化・オープン化に伴うリスク対応も

- 研究不正： FFP（後述）
- 問題ある研究行為：
記録不備、査読、オーサーシップ
- 研究違法行為：
法令違反、ハラスメント、研究費不正

integrity: 誠実さ、高潔さ、誠意、品位、
無傷の状態 (integer, intact)

科学研究における不正行為(九大の分類)

FFPと総称される

- **捏造; Fabrication**

- 存在しないデータ、研究成果等の作成

- **改ざん(改竄); Falsification**

- データ、研究結果を真正でないものに加工すること

- **盗用(剽窃); Plagiarism**

- 文章、アイデアやデータを、当該者の了解または適切な表示なく流用すること

科学研究における不正行為(九大の分類)

- 虚偽の記述または上の三つに準ずる行為
- 上記の行為の証拠隠滅または立証妨害すること

捏造、改ざん

- **都合の悪い結果を排除**
 - 数値を偽る
 - 理想的な傾向と異なる結果を排除する
- **きれいな結果にする**
 - いわゆる「お化粧」
 - 例. スペクトル中の不純物ピークの除去
- **今日では、ソフトウェア（画像エディタなど）で画像の電子的改変が容易にできてしまう**
 - 自覚が重要

研究データは適切に保管を（九大データ管理・公開ポリシーを策定）

盗用(文章)

- **他人の文章を自分の文章であるかのように使用しない(現在は生成AIの問題も)**
 - ウィキペディア等のコピー&ペースト ×
 - 英借文(模範的英文の借用)に注意
 - 電子化された現代だからこそ特に注意が必要
- **他人の文章は、最小限を適切に引用する**
 - 誰々が何を言っているか分かるように
 - 引用は、他の研究者の参照用だけではない
誰のものであるか適切に示すものでもある

盗用（画像など）

- **画像の使用に注意**

- ウェブ上の手頃な画像をスライドにコピー
それを学会で使用 ×
 - スライド集として印刷されたら？
 - 引用を適切に

- **写真撮影、録音も**

- 写真撮影、録音自体にも許可が必要
授業の録音などもしてはいけない ×

盗用(アイデア)

- **アイデアは著作権保護の範囲外**
しかし、研究者倫理に反する
 - 適切に引用する

盗用(その他)

- **自己盗用もダメ!**

- 同じ文章を別の論文で使用 ×

- 学位論文（博士、修士、学士）と雑誌論文は可（と通常はされている）

- 同じ文章、データを複数の学会（オリジナルとして扱われる場所）で使用

- 本来は×だが、分野により慣習が異なる

- **(研究不正ではないが)レポートも盗用はダメ!**

- 友人と相談してもよいが、丸写しは盗用と同じ行為

• 「責任ある研究行為ダイジェスト」

CITI (Collaborative Institutional Training Initiative) Japanプロジェクトより

1. 責任ある研究行為とは
2. 研究活動における不正行為とは
3. データの扱い
4. 共同研究のルール
5. オーサーシップ
6. 先行研究の扱い: 盗用と見なされないために
7. 研究活動における不正行為への対応と手続き
8. 公的研究費の取扱い

研究倫理教材の受講義務

- **e-ラーニング (eAPRIN) による受講**

- APRIN e-ラーニングプログラム (APRIN 公正研究推進協会)
「責任ある研究行為ダイジェスト」
- システムにログイン <https://edu.aprin.or.jp/>
- ログインID、パスワードは後日お知らせ ⇒ 速やかに受講

- **大学院生 (M、D) は受講義務者**

- 受講を必須とし、受講管理が必要な者
- 受講後のテスト合格で受講修了
 - 修了証の提出が必要
 - 3年度毎に受講

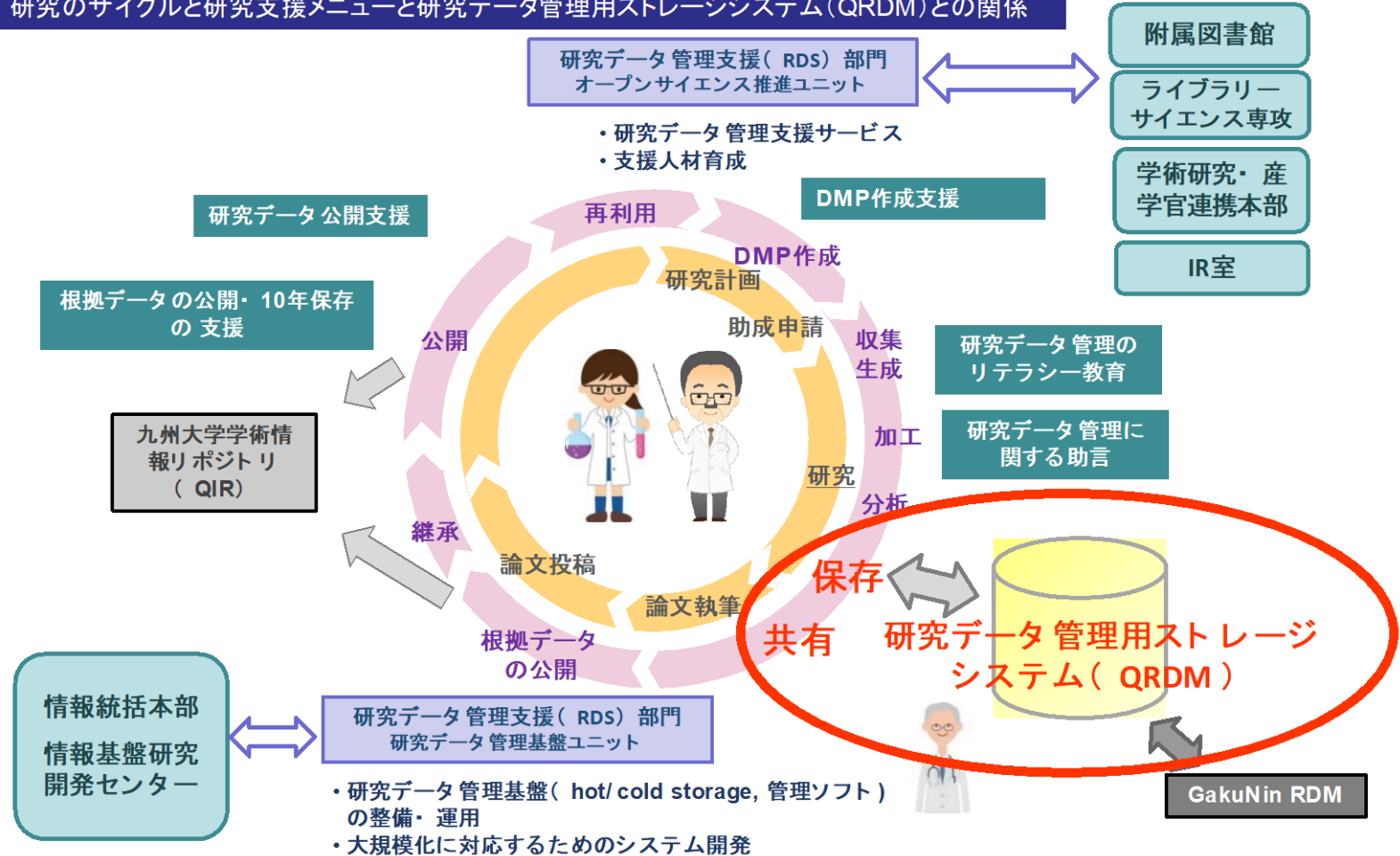
研究データの作成と保管



研究データ管理用ストレージシステム(QRDM)とは?

1

研究のサイクルと研究支援メニューと研究データ管理用ストレージシステム(QRDM)との関係



「九州大学の研究データ管理サービス(2023.10)」より抜粋、一部加工

Generative AI

- ChatGPTなど生成系人工知能について
 - 有効に使い生産性を大きく上げる事が可能
ただし！ 慎重な利用を
 - 著作権、研究倫理などで問題が生じる可能性がある
 - 生成情報には嘘が含まれる、情報漏えいの可能性も
 - AIのアウトプットをCopy&Pasteするのは剽窃・盗用にあたる危険あり
 - AIは親切だが倫理観は信頼できない
(カジュアルに不正行為を勧めてくる例など)

Generative AI

- ElsevierやSpringer Natureなど出版社のガイドラインでは
 - AIは論文の著者基準を満たさない
(著者としての責任を取れない)
 - 文章の生成や論理の導出はNG
 - 推敲・修正・校正などの言語的支援は可
 - 図（イメージ）の生成やデータ処理は原則的に不可

いずれの場合でも、AIを利用した場合は開示が必要

AIへの対応は流動的で、今後の動向に注意